

水源の森再生PJ

【環境改善資材づくり編】～竹炭・籾殻燻炭・焼き杭を作る～

2021年9月19日(日) 参加者24名

◆講座の目的と概要◆

「自然と共生する昔の知恵に学び、山を育て、自分を育てる」

本講座は、環境改善の技術を学ぶだけではなく、「山に向き合う姿勢・視点」を養い自然を読み解く観察力を身につけ、日本各地で環境再生を指導する方を養成していきたいと思っております。2021年6月から始まり複数回、同じ現場で活動しその変化を体感しながら学びます。基本となる、山の土中環境を傷めず育む作法は、毎回の活動中にお伝えしていきます。

◆資材づくり編 第1回「竹炭・籾殻燻炭・焼き杭を作る」◆

山林の環境改善では、炭や落葉を使うことで水や空気の通う土地になります。今回の講座では、10月開に実施する山林の環境改善において、竹材と籾殻を燃やした炭や、木杭を焼いた焼き杭を作成しました。村内で生じた落ち葉や木材、竹材を環境改善の資材として活用し、水源の森の再生を行っていくことで、小菅村内での資源の循環を目指します。



▼材料集めも村内から

手入れが行き届いていない竹藪の枯れ竹や、道路際に溜まった落ち葉などを小菅村内で集めました。源流の景観を整備しながら、廃棄されていた資源が無駄にならないように循環させます。

▼炭で変える環境改善

炭には、小さなたくさんの穴があり（多孔質）多くの微生物の住み家となります。炭を土壌に撒くことで、微生物が住む「マンション」となり、木や落ち葉を分解し、地面に定着する助けになります。

また、炭や落ち葉を地中に混ぜることで、水や空気が滞った地中に流れを作り出すこともできます。畑や山の環境改善にはとても効果的です

今回の講座では、身の回りの資源を活用して炭をつくる方法を学びました。竹炭一つでもいろいろな作り方があり、作る環境に応じて工夫できます。



講師・高田造園スタッフ
山崎 尊史氏



◆もっと詳しく知りたい方へ◆

本講座で学ぶ技術などは、高田宏臣氏著『土中環境』や、NPO法人地球守発行の「地球守の自然読本」に紹介されています。

☆お問合せ 源流大学 ☎ 0428-87-7055

✉ info@npokosuge.jp